

平成七年三月
旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会



東海道品川宿周辺 まちづくり計画書



Tokaido Shinagawa-shuku

はじめに

私たちが住むこの品川のまちは、歴史と文化に彩られた人情あつまちです。まちづくり協議会では、このすばらしい環境を後世に伝えていくまちづくり活動として、2年前に「みこしだこを伝えるまちづくり」という基本的な考え方を示しました。

この考え方は、さらにその2年前に取りかかった「まちの宝物さがし」を進める中で、まちづくり協議会のメンバーがまちの人たちと接触を重ねていく間に、強く意識し始めたものです。

ですから、私たちまちづくり協議会の土台は、過去4年間の活動の積み重ねによって、強固に築かれてきたのです。

そしてこの土台の上に立って今年度は、具体的な形に移す計画づくりに取り組みました。まず、

1. お休み処の整備
2. まち歩きマップの制作、まちの案内看板の整備
3. 水辺空間の活性化
4. 芝居小屋
5. セピア色の写真展の準備

という5つのプロジェクトを組み、それぞれ計画の具体化を進めました。

また、各地の先行事例を調査するために、長浜市・川越市・横浜元町・下北沢・本多劇場などを視察し、まちづくりの最前線で活動している方たちから貴重なアドバイスも頂戴しました。

この計画書に示されていることは、1年や2年でまとめた付け焼き刃なものとは違います。また、専門家に任せて形よく整えたものでもありません。「自分たちの手で、自分たちのまちをつくろう。潤いと安らぎのある、活気に満ちたまちをつくろう。」という、まちづくり協議会の設立の主旨に則って活動を積み重ねてきた、その力の結晶なのです。

この計画書にそって平成7年度は、お休み処とまち歩きマップが具体的な形を現します。私たちの活動もいよいよ第2世紀へとステップアップしていこうとしています。これまで以上に、皆様のご理解と力強いご支援を頂きたいと思えます。

まちづくりには、年配の方々の知恵・若い人たちの力・そして女性の感性が欠かせません。一人でも多くの方のまちづくり活動への参加を要請する次第です。

最後になりましたが、この計画書を作成するにあたって、品川区の皆さん、そして作業グループとして、インタミディア・GK設計の皆さんに大変お世話になりました。ここに深く感謝申し上げます。

平成7年3月

4. 界隈空間の形成

4-1. 水辺空間の活性化とは？	48
1) 水辺空間の活性化の目的	49
2) 水辺空間の活性化計画一覧図	50
3) アプローチ道路を考える	51
4) (1) 水辺空間のイメージ目黒川沿いの遊歩道整備	52
(2) 水辺空間のイメージ東品川海上公園の整備	53
(3) 水辺空間のイメージ水上レストラン	54
(4) 水辺空間のイメージ船溜まり	55
4-2. 路地を結ぶ計画とは？	56
1) 緑でつなぐ	57
2) 東海道とお寺・神社とつなぐ	58
4-3. 坂道をつなぐ計画	59

5. 人・文化育成事業

5-1. セピア色の写真展とは？	61
1) セピア色の写真展のためにすること	62
5-2. 芝居小屋の復活とは？	63
1) 芝居小屋として活用する場所	64
2) だしものを考える	65
3) 芝居小屋のイメージ	66
5-3. 伝統工芸の活用	67
5-4. 品川グッズの開発	68
1) 品川グッズを守る	69
2) 品川グッズを創る	70
4) グッズで東海道五十三次をつなぐ	71
5-5. ジュネーブ市との交流	72
5-6. 東海道五十三次宿場町ネットワークとの交流	73

6. 今後を支えるもの

6-1. まちづくり計画のスケジュール	75
6-2. まちづくり計画の今後	77
6-3. まちづくり会社について	89
6-4. まちを守るーまちの防災について	83
6-5. まちづくり協議会の構成	84
6-6. まちづくり協議会運営委員名簿	85

目次

はじめに

1. まちづくり計画の考え方

1-1. まちづくりの目標～みこしだこを伝える	2
1-2. 東海道品川宿の定義	3
1-3. まちづくり計画の位置づけ	4
1-4. まちづくり計画の考え方	5
1-5. まちづくり計画の構成	7

2. お休み処整備事業

2-1. お休み処とは？	9
1) お休み処として活用する場所	10
2) お休み処がつなぐもの	11
3) お休み処の活用イメージ	12
4) 様式に適切なお休み処	13
5) 規模（広さ）に適切なお休み処	14
6) お休み処その壱（旧福田家－稲公隣家）	15
7) お休み処その弐（中垣邸前）	16
8) お休み処その参（店先その他）	17
9) お休み処その四（将来的な複合施設）	18
2-2. まちのサイン計画	19
1) まちのサインの構成	20
2) 色彩のルール	21
3) 文字のルール	22
4) まち歩きマップとは？	23
5) マップの配布場所と利用イメージ	24
6) マップのデザインー簡易タイプ	25
7) マップのデザインーブックタイプ	26
8) まちかどサインとは？	27
9) まちかどサインの役割	28
10) 案内誘導のしくみ	29
11) 歴史継承のしくみ	30
12) まちかどサインのデザイン	31

3. 未来につなげるまちづくり

3-1. いいまちなみ・歩きやすい環境づくりのために	34
1) まちなみの調和を学ぶ	35
3-2. 緑をつなぐ	39
1) 松をつなぐ	40
(1) 大きな松をつなぐ	41
(2) 小さな松をつなぐ	42
2) 桜をつなぐ	43
3-3. 石をつなぐ	44
1) 石畳のデザイン	45
3-4. 光をつなぐ	46

1.まちづくり計画の 考え方

旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会は、昭和63年10月に品川宿周辺に暮らす有志によって結成されました。『自分たちの手で、自分たちのまちをつくろう。潤いとやすらぎのある、活気に満ちたまちをつくろう。』という趣旨のもと、様々な活動を行ってきました。

その過程で生まれてきた重要な点は、日常の暮らしの中では見えにくかった品川宿周辺の『まち』の持つ魅力や財産を『宝物』として再発見し、評価する動きでした。

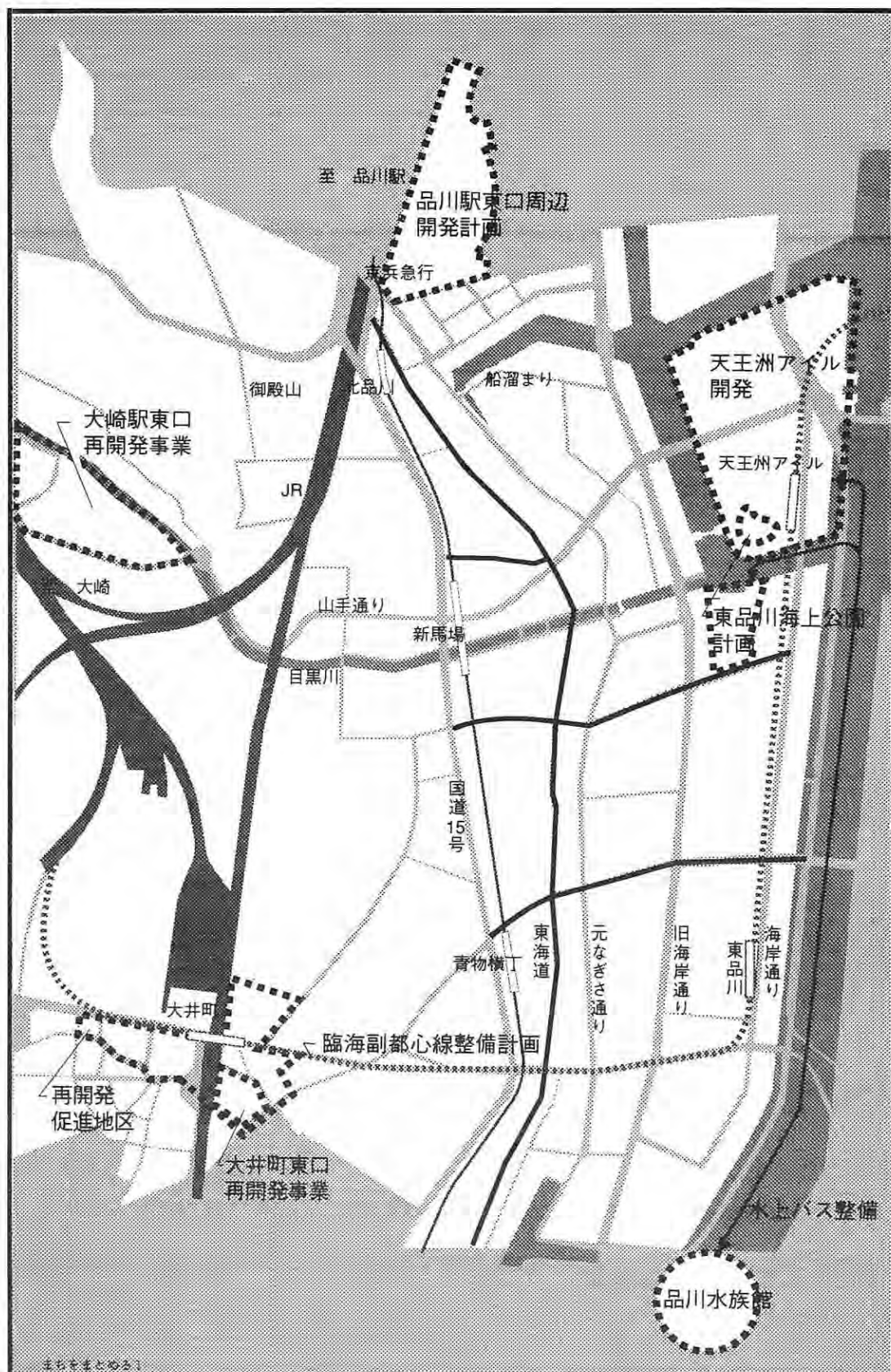
周辺が変化すればするほど、まちの良さが際立つことが認識され始めました。わたしたちは、この再発見した『宝物』を、地域の人はもちろん、新たにこの地域を行き交うようになる多くの人に伝え、共に慈しんでいきたいと考えています。

歴史を積み重ねてきた『祭り』が、これからも生き続けることを願い、わたしたちは、これからのまちづくりの目標に、『みこしだこを伝える』という言葉掲げました。『みこしだこ』はこのまちの『宝物』の象徴です。

『みこしだこを伝える』とは、わたしたちの暮らしぶりのすべてがこめられた『祭り』の舞台づくりを、次代に継承していくことです。これから、長い時間をかけてつくりあげる、わたしたちの品川宿の風景の指標として、まちのデザイン化計画を役立てたいと考えています。



東海道品川宿とは、地理的に厳密な意味での『東海道』に直接接する区域のみではなく、まして『品川宿』という限定された境界線で区切られたエリアだけでもありません。『東海道』『品川宿』という誰もがわかりやすい地名を旗印としながらも、空間的・概念的にかなり柔軟な範囲として捉えています。



このまちづくり計画は、次の位置づけのもとに作成されたものです。

1. 4カ年にわたる協議会での活動を踏まえた提案であるということ。
2. まちの活気づくりとともに、生活環境の整備や地域社会の形成をめざしたものであるということ。
3. まちに暮らす人たちによるまちづくりを基調としており、提案する内容は、次の役割を担うものである。
 - 区を中心とした関係各機関に対してまちづくりの推進を要望するもの。
 - 広範な品川宿に暮らす人たちに対してまちづくりへの理解・協力と参加を呼びかけるもの。
 - 協議会自体の今後のまちづくりの実践的活動の指針となるもの。

わたしたちは提案の作成に先立ち、まちづくりの実例を学び、品川宿のまちづくりを真剣に話し合いました。



H6.10

視察先での勉強会－長浜・黒壁にて



H7.12

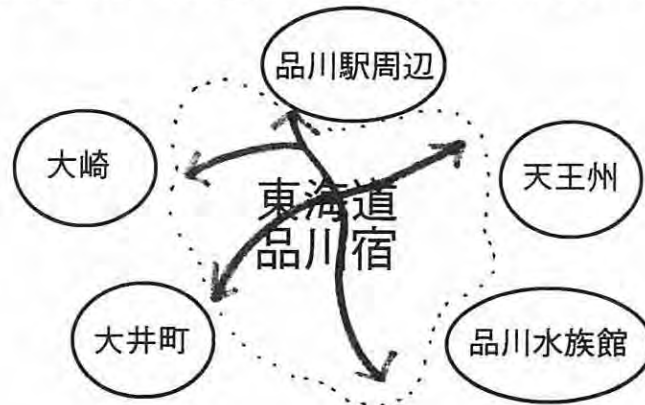
まちづくり意見発表会－六行会会議室にて

このまちづくり計画は、次のような考え方のもとに作成されたものです。

1. 周辺地域と関係づけた上で、品川宿の特性を考える。

○品川宿周辺を、広い視野で捉えたと、まちづくりに影響を与えると考えられる周辺開発等のプロジェクトに多数囲まれていることがわかる。これらの開発はいずれも再開発による商業・業務の集積地としての効率的な利用を図るものである。都市の変化の影響は品川宿にも見られ、歴史の面影を残す建物は次々に消え、商店街のまちなみも歯抜け現象が起きつつある。

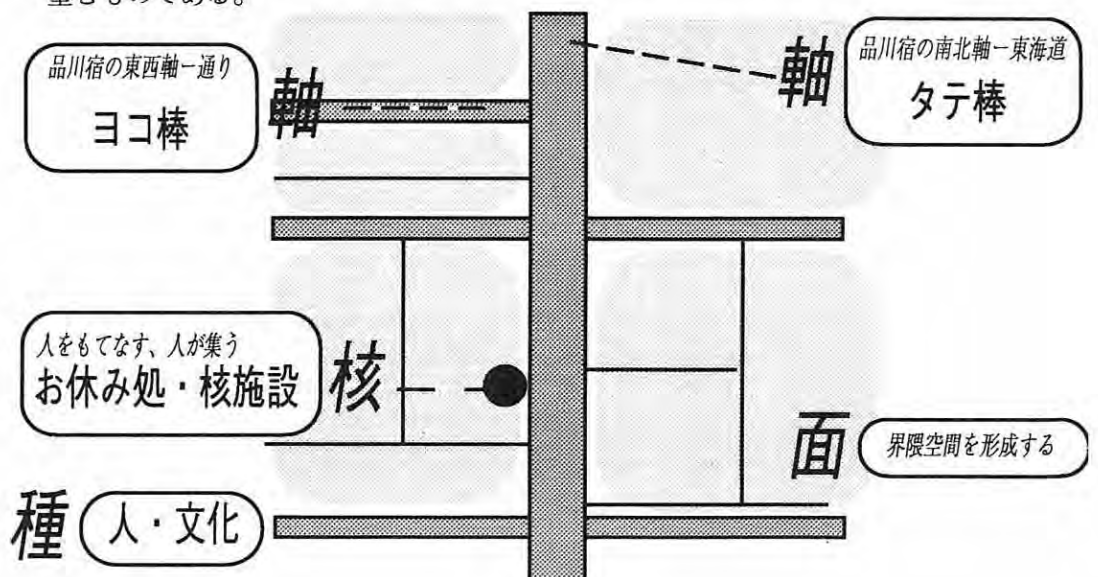
しかし、こうした危機感の一方で品川宿には、まちに暮らす人々の持つ昔ながらの人情厚い気質・祭・歴史ある寺社・路地等が、今も宝物として大切に守られている。この長い時間をかけて築いてきた宝物は、他の都市で失われつつある潤いと安らぎの源であり、品川宿ならではの特性である。これを活かしていくことが、今後の品川宿の目指すべき方向であると共に、周辺地域との共存に向けた品川宿らしさとなるものと考える。



2. まちの構造（タテとヨコの関係）を明確にする。

○品川宿のまちづくりにとって、南北の東海道・東西の各通りは、『東海道品川宿』の主軸であり、いわば、神輿のタテ棒とヨコ棒の関係である。それぞれの通りが力を出し合うことが重要で、そこには主役も脇役もない。

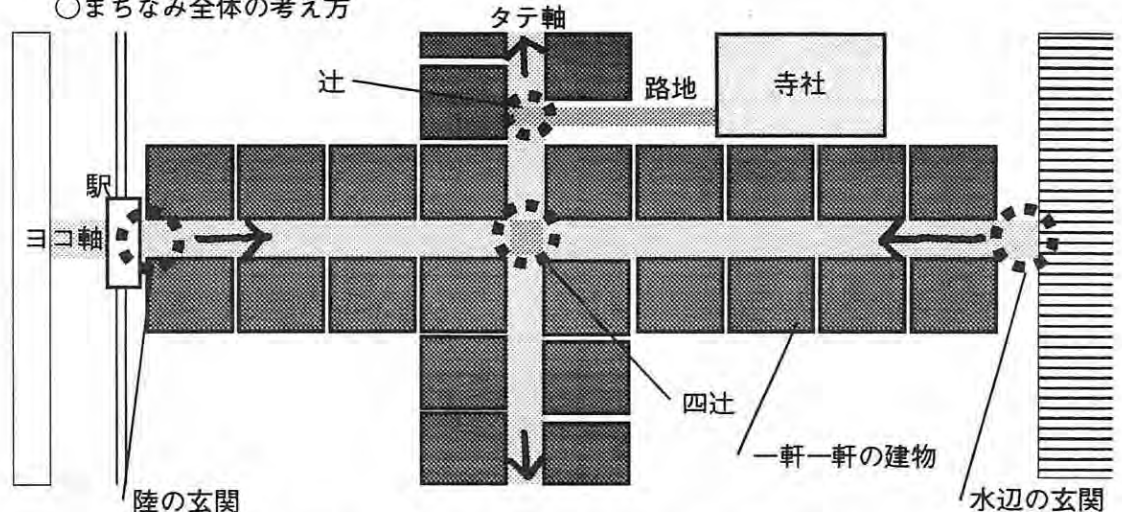
まちの構造を明確にするためには、それぞれの軸がまちづくりのための役割を担う必要がある。東海道は、品川宿の中心として軸性を強める。東西の通りは、周辺地域と品川宿を結ぶ動脈となる。核となる施設は、まちなみを先導する役割を担う。そして、軸に支えられる面である界隈空間は、核施設・宝物をきっかけに個性化が進められることを望むものである。



3. 品川宿らしさを目に見えるかたちで表わす。

先に述べた品川宿らしさ・品川宿の構造の強化に基づいて、具体的にまちなみを形成していくための考え方を示す。

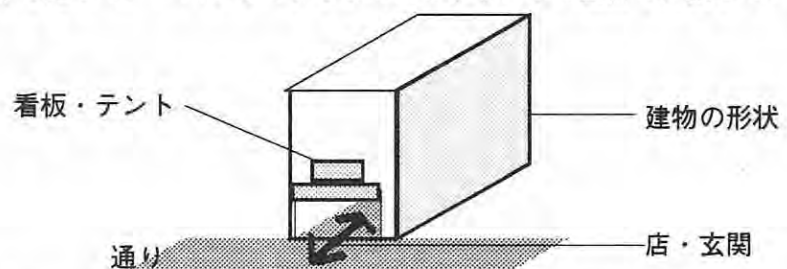
○まちなみ全体の考え方



- ・タテ軸—将来的な歩道の石畳舗装・街路灯の統一化等による整備・緑をつなぐ整備
- ・ヨコ軸—将来的な歩道の石畳舗装・街路灯の統一化等による整備・緑をつなぐ整備
- ・陸の玄関—サインの整備・お休み処の整備
- ・水辺の玄関—サインの整備・お休み処の整備・緑をつなぐ整備・水辺空間の活性化
- ・四辻—交差点の石畳舗装による顕在化・サインの整備
- ・辻—交差点の石畳舗装による顕在化・サインの整備
- ・路地—寺社につながる路地の石畳舗装・サイン整備による名称の復活
- ・建物—意識を高める・看板をそろえる・お休み処の整備・核施設の整備

○一軒一軒からできるまちなみの考え方

この考え方は、決して強い規制をかけて統一していくものではない。品川宿が目指すまちなみへの理解を働きかけ、あくまでも個人を尊重しながら、自主的な参加を呼びかけるものである。できるところから進めていく柔軟なルールである。協議会は、お休み処等を通して、これからのまちなみのお手本となる整備を目指していく。



- ・建物の形状—基本的な考え方としては自由である。ただし、次の世代に残すまちなみをつくるためには、古くても歴史ある建物は可能な限り残し、または活かし、まちぐるみで宝物として大切に使う精神が不可欠である。新しいものと古いものが共存できるまちなみを目指すものである。
- ・看板、テント等—看板・テントは、素材・色・文字等を選択できる範囲で統一する。また、置き看板等は狭い歩行空間を有効に活用するためにできる限り置かないことを基本とする。
- ・店、玄関—通りに対する配慮をする。開かれた空間となっているか、もてなす心が伝わる空間かがチェック項目となる。

まちづくり計画は、前項の考え方を基に、具体的な以下の計画から成り立ちます。

まちづくり計画の構成

まちづくりの

核

●お休み処の整備

●お休み処の全体計画

●お休み処平成7年度実施計画

●まち歩きマップ平成7年度発行計画

●まちかどサインの計画

まちづくりの

軸

●未来につなげるまちづくり

●いいまちなみ・歩きやすい環境づくりのために

●緑をつなぐ

●石をつなぐ

●光をつなぐ

まちづくりの

面

●界隈空間の形成

●水辺空間の活性化

●路地を結ぶ計画

●坂道を結ぶ計画

まちづくりの

種

●人と文化の育成

●セピア色の写真展

●芝居小屋の復活

●伝統工芸の活用

●品川グッズを考える

●ジュネーブ市との交流

●東海道五十三次宿場町ネットワークとの交流

まちづくりの

力

●まちづくり会社の設立

2. お休み処の整備

ここでは、お休み処がまちづくりに果たす役割を改めて整理すると共に、具体的な計画案を提示します。そして、目に見えるかたちを通して、今後私たちが守り続けていくものは何かを示します。

2-1. お休み処とは？

- 1) お休み処として活用する場所
- 2) お休み処がつなぐもの
- 3) お休み処活用のイメージ
- 4) 様式に適切なお休み処
- 5) 規模に適切なお休み処
- 6) お休み処その壱
- 7) お休み処その弐
- 8) お休み処その参
- 9) お休み処その四

2-2. まちのサイン整備

- 1) まち歩きマップとは？
- 2) まち歩きマップの配布場所と方法
- 3) まち歩きマップのデザインー簡易版
- 4) まち歩きマップのデザインーブック版
- 5) まちかどサインとは？
- 6) 案内誘導のしくみ
- 7) 歴史継承のしくみ
- 8) まちかどサインのデザイン

お休み処とは、このまちのよさを、地域の人はもちろん、新たにこの地域を
行き交うようになる多くの人にも伝えていくための、まちづくりの核となる場
です。

わたしたちは、お休み処を、具体的なまちづくり計画のさきがけとして位置
付けています。

お休み処を通して、まちの声が集められ、生かされ、そしてもてなしの心が
伝わっていくことが、この計画の目的です。

お休み処とは？

まちづくりの核となる場

です。

お休み処の3つの役割

●お休み処は多くの人に語りかけるための「交流」の場です。

- 情報の収集と発信
 - ・協議会によるまちづくり活動のPR
 - ・東海道五十三次宿場町ネットワークとの交流
 - ・ジュネーブ市との交流
 - ・品川名物の紹介

- まちの文化の育成
 - ・セピア色の写真展の開催
 - ・芝居小屋としての活用
 - ・伝統工芸を生かす

●お休み処は多くの人を招くための「もてなし」の場です。

- まちを案内する
 - ・まちの人によるまちの案内
 - ・まち歩きマップの配布・販売
 - ・まちかどサインの整備箇所

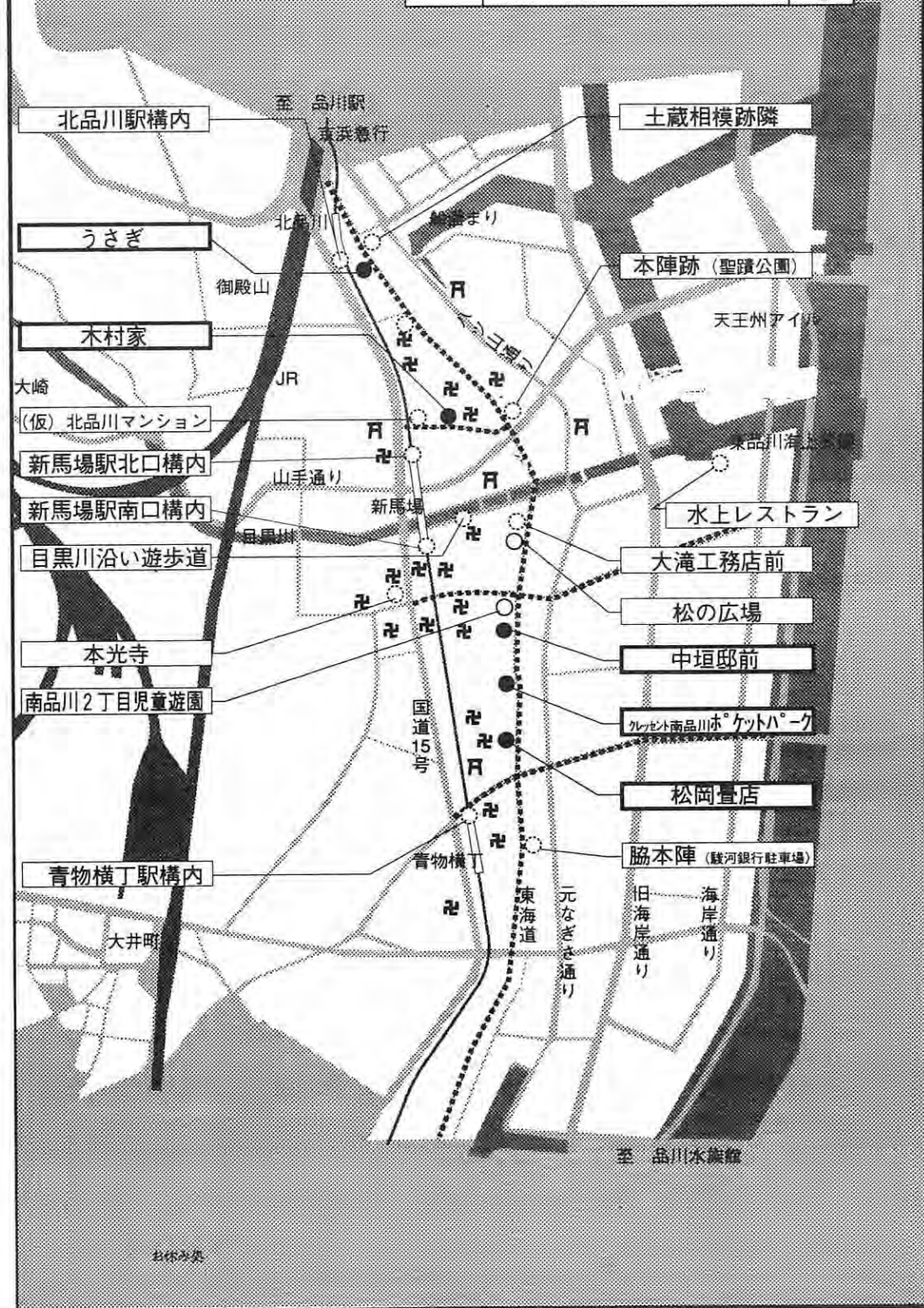
- 休息の場
 - ・座って休める場の提供
 - ・お茶・お菓子のサービス

●お休み処は多くの人がまちづくりに関わるための「参加」の場です。

- 資料館
 - ・まちづくりの資料の保管・閲覧
- サロン
 - ・まちづくりを語り合う場・発表する場
- まちなみモデル
 - ・まちなみ形成のお手本

■お休み処として活用する場所

凡例	既に整備された場所	○
	平成7年度整備予定の場所	●
	将来目標の処	○



お休み処は、その他の様々なまちづくり計画をつなぐ接点でもあります。お休み処を通して、様々な計画の可能性が試され、実現に向けて進むことできるからです。まちのひとたちの創意工夫が、お休み処で刺激しあえるように、積極的に活用していきたいと考えます。

お休み処がつなぐ まちづくり計画

交流の場

- 東海道五十三次宿場町ネットワークとの交流
- ジュネーブ市との交流
- セピア色の写真展の開催
- 芝居小屋の復活のための企画の試運転
- 品川グッズの試験販売
- 伝統工芸の実演・販売および伝統工芸の活用

もてなしの場

- まちのサイン計画の一環としてのマップの配布・販売

参加の場

- 松をつなげる計画の一環としての小さな松の整備
- 将来的なまちづくり会社の設立のための活動

お休み処はまちづくりのために多くの役割を果たします。ここでは、具体的に平成7年度に実施する「お休み処その壱」を通して、お休み処が様々な活用されるイメージを考えました。

お休み処の活用イメージ



平日のお休み処

- 手前の土間が開放され、買い物の休憩場所や、まちの人たちの語らいの場となっている。
昼休みには、近所の勤め人がお弁当を片手に訪れ、無料マップを手にまちの意外な魅力に気づいたりしている。
「なかなか面白いまちだな。」



お休み処で伝統工芸の実演・販売

- 時折、お休み処では伝統工芸の実演・販売が催される。ま近で見る職人の技と話に人だかり。
日頃知らなかった手のぬくもりのある品々について、
「これ下さい」



休日のお休み処

- まちの人が店番をしている。散策に訪れた老夫婦が差し出されたお茶を飲みながらまちの話を聞いている。何でも来週の土曜日の夜は、落語が開かれるらしい。
「来週もまたきてみよう。」

品川宿周辺は、様々な様式の建物が混在したまちなみで形成されています。土蔵造り・町家といった歴史を感じさせる建物から、昭和20年代以降の看板建築、近年のRC造とそれは様々です。

私たちには、古き良き建物を歴史ある品川らしさとして残し、生かしていく努力とともに、新しい建物に対しては、これからの品川らしさの創造が求められています。新旧の建物それぞれに適切な、品川らしさを表わしていくために、できることは何かを考えることが大切です。この時、不必要な和洋折衷は避けるべきでしょう。

お休み処は、新旧の混ざり合う品川宿のまちなみに、場所ごとに適切なお休み処をつくることで、これからのまちなみのお手本を示します。

建物の様式に合わせる（広場・寺社地・店先の場合は周辺に合わせる）

- 宿場まちとして栄えていた時代
- 商店街がかたちづくられた時代

整備の考え方

- ・木の素材感、ぬくもりを生かす
- ・伝統と情緒を重んじる（伝統工芸の活用等）

土蔵造り

町家

- 新しいまちなみづくりの時代

整備の考え方

- ・モダンで明るく開放的な空間とする
- ・金属、石、木といった自然の素材を生かす

RC造

お休み処は、整備する場所の規模（広さ）によってその役割に、条件がつけられます。例えば、10～20坪程度の店舗をすべて活用できる場合は、役割を最大限果たすことができます。反対に、店先や、寺社地・広場・公園といった屋外の限られた空間では、その役割も場所ごとに限定されます。

規模に適切なお休み処とすることで、管理・運営に無理のないものとなります。また、これは、前項の『様式に適切なお休み処』と連動して成立するものです。

場所の規模に合わせる

- 店舗（10～20坪程度）－
空店舗をまちのもてなし空間
とする積極活用

条件

- 家賃・光熱費等の維持管理費
- 有人の場合は人件費
- 管理運営は

役割

- 休憩
- 案内
- PR
- 情報収集・交換
- 集会 ○お手本

- 店舗部分
- 店先
店舗のもてなし空間
としての積極活用

条件

- 営業に支障のない範囲（業種によって適不適がある）
- 管理・運営は該店舗ごとに対応
- 店先は屋外仕様

役割

- 休憩
- 案内
- PR（該店舗の商品であればなお良い）

- 駐車スペース
- 駐車場
まちなみの歯抜け部分をまち
のもてなし空間とする積極
活用

条件

- 管理・運営は該商店街ごとに対応
- 屋外仕様（耐久性）

役割

- 休憩
- 案内

- 広場・公園
うるおい空間をまちのもてなし空間とする積極活用

条件

- 管理・運営は該商店街ごとに対応
- 屋外仕様（耐久性）

- 寺社地内
うるおい空間をまちのもてなし空間とする積極活用

条件

- 管理・運営は
- 屋外仕様（耐久性）